

保健師学生への学習支援が四国内市町村保健師個人や組織にもたらしたものの計量テキスト分析

横井 百合¹⁾ 入野 了士²⁾ 野村 美千江³⁾ 田中 美延里²⁾

1) 愛媛県教育委員会 2) 愛媛県立医療技術大学 3) 聖カタリナ大学

【目的】保健師学生の実習における市町村保健師の学習支援が保健師個人と組織にもたらしたものを明らかにすることである。

【方法】四国4県の市町村保健師を対象にWEB調査を実施した。調査内容は保健師経験年数、過去5年以内の実習指導者／学習支援者の経験の有無、関わりの工夫、学習支援を通して個人や組織が得たものである。自由記述について、KH Coderで共起ネットワーク図を作成し分析した。

【結果】有効回答124人、過去5年以内の経験は実習指導者（以下、指導者）82人（66.1%）、学習支援者（以下、支援者）42人（33.9%）。経験年数の中央値は指導者が19.0年、支援者は12.5年で新任期から管理期まで幅広い世代の関わりがあった。

学生に関わる工夫として、指導者はより多くの住民・関係者と交流できる機会をつくることを心がけ、指導者・支援者ともに学生と交流して自分の保健活動の経験を語ることをしていた。

実習での学習支援を通して保健師個人にもたらされたものは、地区データ見直しによる健康課題や強みの新たな気づき、先輩の語りと一緒に聞くことで地区に出て活動する意義の再確認、活動の振り返りの機会等であった。組織にもたらされたものは、関係機関や他部署・住民へのネットワークの拡大、指導スキルの向上、後輩を育てる意識の高まり、先輩・同僚の経験からの学び合いであった。

【結論】実習指導者だけでなく、幅広い世代の市町村保健師が、多様な役割を担いながら保健師学生の実習に関わり、学習支援を行うことで、保健師個人の後輩を育てる意識や指導のスキルを高め、学生・住民・関係者・組織内外の保健師らと学び合いをもたらしめている実態が明らかになった。結果、コミュニケーションは増え、職場の風土に良い影響を与えると考える。実習プログラムに意図して人材育成につながる内容を入れる工夫だけでなく、今後、各市町村保健師のキャリアラダーに保健師学生の実習指導を位置づけることで、OJT(On-the-Job Training)を効果的に行うことができ、組織的な人材育成において有効である。

Key words : 市町村保健師、保健師学生、実習指導、学習支援、影響評価、計量テキスト分析

I. はじめに

行政保健師は、4年制大学の看護師教育課程・保健師教育課程、看護師3年課程・2年課程・5年一貫教育課程等で学ぶ看護学生の実習指導に関わっている。その根拠である保健師助産師看護師法指定規則に加え、2013年の「地域における保健師の保健活動に関する指針¹⁾」において、都道府県・保健所設置市・特別区および市町村の本庁の保健活動の総合調整および支援の役割として、保

健師等の学生実習に関する調整及び支援を行うことが明文化され、行政保健師による学生実習への主体的な関与が求められている。

一方で、行政で働く保健師のうち実習指導者講習会の受講を経験していたのは37.8%との報告もあり²⁾、2016年に厚生労働省による保健師に係る研修のあり方等に関する検討会³⁾（以下、検討会と略す）が示した、自治体保健師の標準的なキャリアラダーの中に、実習指導は位置付けられていない。検討会が示したラダーは、自治体保健師に

概ね共通して求められる標準的な能力を整理したものであり、実際の活用にあたっては各自治体の判断に委ねられている。

例えば、保健師の現任教育に実習指導を位置付け、実習時にロールモデルとなることを奨励している横浜市⁴⁾、実習生と現任教育双方の質の向上につなげようとする東京都⁵⁾など、人材育成の一環として実習指導を位置付けて取組んでいる自治体もある。しかし、四国内の自治体においては、学生実習指導に関する業務の位置付けや人材育成との関連に関する先行研究は見当たらず、実態は不明であった。

文献検討の結果、保健所の実習受入れの工夫として、実習指導者以外の職員との役割分担と連携に注目した報告⁶⁾はあったが、具体的な学習支援については明らかではなかった。市町村保健師を対象とした研究が1件あり、学生指導はOJT (On the Job-Training : 職場内教育) における人材育成の一助となることや保健師のエンパワメントにつながることを示唆したものであった⁷⁾。実習生の学習過程を調査した研究では、指導保健師は活動の場を構成している住民や保健師・関係者の中に看護学生を参加させることを促し、保健活動の《輪に入れる》ことを行っていた⁸⁾。実習指導保健師は、実習目的を達成するために、住民や関係者と連携・協働し、ネットワークを広げる機会を得て自身の学びにつなげている可能性がある。また、保健師学生の実習は、保健師個人だけでなく、組織に何等かの影響を与えていると考えられる。

そこで、四国内の市町村保健師を対象として、保健師学生の実習における関わりが保健師個人と組織にもたらしたものを明らかにすることを目的に調査研究を行うこととした。

Ⅱ. 方法

1. 用語の定義

本稿で用いる保健師学生とは、「保健師課程を有する看護系大学または看護系短期大学の専攻科等で学ぶ保健師教育課程の学生」である。実習指導者とは、「業務として実習指導者の役割を担い、学習の支援を行う保健師」と定義する。例えば、教員と打合せ、実習計画立案、関係部署と調整等を行い、カンファレンスや反省会に参加する

保健師である。学習支援者とは、「実習指導者ではないが、実習で学生に関わり、学習の支援を行う保健師」と定義する。例えば、課内の管理職、地区担当 (家庭訪問、健康教育、地区踏査等)、事業担当 (事業オリエンテーション、集団健診等) の立場でオリエンテーションを行い、地区や施設の案内、声かけ、学習の場づくり等を行う保健師である。

2. 研究対象

対象は、四国4県内の市町村に勤務し、過去5年以内に実習生に関わったことのある保健師とした。四国4県内の全市町村95自治体の統括保健師に、研究協力について文書で依頼し、調査票の見本と市町村保健師個人宛の協力依頼文書を計1,316枚同封した。個人宛依頼の数は、令和2年度保健師活動領域調査による市町村配置保健師数⁹⁾を参考にした。

3. データ収集

データ収集は、無記名、自記式のWEB調査により行い、調査期間は、令和3年9月17日～10月8日である。調査項目は、保健師経験年数、過去5年以内の実習指導者/学習支援者の経験の有無、実習指導者講習会受講の有無に加え、自由記述として実習生への関わりで工夫していること、実習生への学習支援を通して得たものや学んだこと、実習を受け入れることによって自組織にとって良かったことの3点を設けた。なお、本研究は「市町村保健師が看護系大学生の実習で担う役割と相互学習の実態」の一部である。

4. 分析方法

実習指導者と学習支援者の2群に分け、3つの設問別に自由記述回答の計量テキスト分析¹⁰⁾を行った。なお、両方の経験がある者は実習指導者に分類した。

手順は、1) 自由記述回答の誤字脱字を修正し、不要なスペースやセル内の改行を削除し、設問別にExcelファイルを整えた。2) KH Coder Ver.3 (フリーソフト) にファイルを読み込んで共起ネットワーク図を作成し、視覚的に見た語と語のつながりや関連の強さ、頻度など概観を把握した。3) 抽出語リストとファイルを行き来して、意味を損な

うことはない程度に表現を統一するとともに、地域看護や公衆衛生看護領域で用いる専門用語や固有名詞など 251 語を辞書登録し、強制抽出語を設定した。4) 共起ネットワークの設定で、集計単位は「段落」、図に出現する語の最小出現数は「3」、共起関係は「語-語」とし、共起ネットワーク図を精練させた。5) 共起ネットワークで自動的に検出されたサブグラフ（比較的強く結びついている部分）について、素データを繰り返し読み、全体を理解するよう努めながら、解釈した意味を「特徴」として示した。これらの作業を複数回繰り返した。

5. 倫理的配慮

本研究は愛媛県立医療技術大学研究倫理審査委員会の承認を得て実施した（承認番号 21-012）。各市町村の統括保健師および保健師個人へは、匿名性の確保やデータの保管・処理方法、研究への自由参加、結果の公表等について書面で説明し、WEB 調査の同意欄への記入にて同意を得た。

Ⅲ. 結果

1. 分析対象者の概要及び自由記述の回答状況（表 1）

回答総数は 131 件（回収率 10.0%）で、経験年数の未記入、同一端末からの明らかな重複回答、実習指導者と学習支援者の未経験者を除いた、124 件を分析対象とした。その内、実習指導者は 82 人（66.1%）、学習支援者は 42 人（33.9%）で

あった。なお、実習指導者の内、76 人（92.7%）は学習支援者の経験があった。経験年数の中央値は実習指導者が 19.0 年、学習支援者は 12.5 年で新任前期から管理期まで幅広い世代がほぼ同程度であった。保健師助産師看護師実習指導者講習会の受講者数は 12 人（9.7%）であった。

自由記述の回答状況は、「実習生への関わりの工夫」は 94 人（75.8%）、「保健師個人が学習支援を通して得たもの」で 89 人（71.7%）、「学生実習受入れが組織にとって良かったこと」は 75 人（60.5%）であった。

2. 保健師学生への関わりの工夫

分析対象とした文章数は実習指導者 147、学習支援者 51 であり、実習指導者 6、学習支援者 4 のサブグラフが抽出された。

1) 実習指導者

実習指導者が保健師学生と関わる上で工夫していることとして、以下の 6 つの特徴を抽出することができた。

【住民及び関係者、学習支援者に実習の協力依頼をし、学生と一緒に挨拶に行き、対話する機会を多くつくる】とともに【地域の特性が把握できるように、より多くの住民・関係者・学習支援者と交流できる場を増やす】ように努力していた。また、【住民の生の声や事業説明からの学びや思いについて、学生が話やすくなるような声かけ、雰囲気づくりを心がける】とともに【自分の考えを押しつけ過ぎない助言をする】ことを心掛け、【互いに学びを深め合うために、実習目標を尋ね、

表 1 分析対象者の概要

	分析対象者全体 (N=124)		実習指導者 (n=82)		学習支援者 (n=42)	
	(%)	(100.0)	(66.1)	(33.9)	(%)	(%)
(経験年数)	中央値	18.0	19.0	12.5		
	(四分位範囲)	(9.0-25.0)	(11.8-25.3)	(5.0-23.3)		
(経験年数区分)	n	(%)	n	(%)	n	(%)
1 年 (初心者)	0	(0.0)	0	(0.0)	0	(0.0)
2～3 年 (新任前期)	4	(3.2)	0	(0.0)	4	(9.5)
4～5 年 (新任後期)	10	(8.1)	3	(3.7)	7	(16.7)
6～10 年 (中堅前期)	24	(19.4)	16	(19.5)	8	(19.0)
11～15 年 (中堅後期)	13	(10.5)	8	(9.8)	5	(11.9)
16～25 年 (リーダー期)	45	(36.3)	35	(42.7)	10	(23.8)
26 年以上 (管理期)	28	(22.6)	20	(24.4)	8	(19.0)
実習指導者講習会受講者数	12	(9.7)	7	(8.5)	5	(11.9)

家庭訪問後の学生の学びや指導者の気づきを共有しあう】ことや【保健師が仕事に関わる対象者の特徴や活動の魅力、姿勢、楽しさを意識して伝える】ように学生と関わっていた。

2) 学習支援者

学習支援者が保健師学生と関わる上で工夫していることとして、以下の4つの特徴を抽出することができた。

【事業の目的や根拠を意識して伝える】とともに【学生の理解を確認しながら自分の経験からやりがいを伝える】ことを心掛けていた。また、【保健師活動の醍醐味や大切さを伝え、学生を評価する時は良い点を見つけて返す】ことや【困っていることがないか声をかけて、実習が楽しいと感じられる雰囲気をつくる】ように学生と関わっていた。

3. 保健師個人が保健師学生への関わりを通して得たもの

分析対象とした文章数は実習指導者 104、学習支援者 47 であり、実習指導者 10、学習支援者 7 のサブグラフが抽出された。

1) 実習指導者 (表 2)

上位 5 位までの抽出語は、学生 (24)、地区 (20)、感じる (17)、自分、保健師 (各 15) であり、以下、7 回以上出現した語は、機会、見直す、気づく、記録、視点、分析、きっかけ、健康課題、見

る、思う、学ぶ、参考、事業、実習、新た、地区踏査であった。

6つの群でネットワークが強くみられ、【事前準備として既存資料や健康課題の調べなおしを行い、現場に行くことで担当者の思いや事業の経緯を知る】、【学生の新たな視点や意見が地区活動を見直す機会になり、地区踏査を普段から行う時間を持つ必要性を再認識する】、【学生の記録や発表から自分の地区のデータを見直し、保健活動の振り返りを行う機会となる】、【学生の新鮮な思いや一所懸命さが初心を思い出させる】、【先輩保健師の語りを一緒に聞き、地区の見方や住民主体の活動の重要性を再認識する】、【自身の保健師としてのあり方やこれからの保健師活動の方向性を考える機会となる】が特徴として抽出された。

具体的には、「自身の事前準備として改めて地域住民の健康課題等について調べなおし」、実習開始後は「現場まで付き添うことで、実習指導者が事業担当者の思いや事業の経緯を改めて知ることができて勉強になった」と感じ、「PDCA サイクルがまわっているか自分への振り返りをする」機会を得ていた。また、「先輩保健師の地区の見方、聞いたり、感じたりして住民目線で物事を考える重要性を再認識」し、また、「後輩を育てる大切さ」を感じるだけでなく、「実習反省会では、保健師としてのあり方や活動の方向性にも気づかされる」ことや、「指導する際の導き方、気づかせ方、言うべ

表 2 保健師個人が学習支援を通して得たもの (実習指導者)

群	特徴	主な抽出語	自由記述 (抜粋)
01	事前準備として既存資料や健康課題の調べなおしを行い、現場に行くことで担当者の思いや事業の経緯を知る	事前、準備 住民、見直す 担当地区 きっかけ、業務 関わる	「自身の事前準備として改めて地域住民の健康課題等について調べなおした」「現場まで付き添うことで、実習指導者が事業担当者の思いや事業の経緯を改めて知ることができて勉強になった」「健康教育の事前準備として学生が作成した媒体が参考になる」「PDCAサイクルがまわっているか自分への振り返りになる」
02	学生の新たな視点や意見が地区活動を見直す機会になり、地区踏査を普段から行う時間を持つ必要性を再認識する	学生、地区 分析、視点 地区踏査 普段、気づく 新た、時間	「地区にしっかりと足を運んで住民と接し、地区分析や健康課題を分析・評価していくことの大切さに改めて気づく」「学生の新たな視点や意見が参考となり地区や活動を見直す機会になる」「地区踏査を普段から行う時間を持つ必要性を再認識する」「地区を学生と一緒に俯瞰しアセスメントすることで新たな発見に気づく」
03	学生の記録や発表から自分の地区のデータを見直し、保健活動の振り返りを行う機会となる	自分、記録 振り返る データ	「学生の発表から自分の地区のデータを見直す必要性を感じる」「自身の実習指導での発言や行動について記録を通じて知り、保健活動を振り返る」「記録から改めて地域の良さや保健師の動きを客観的に見ることができた」
04	学生の新鮮な思いや一所懸命さが初心を思い出させる	新鮮、思い 初心、毎回	「後輩を育てる大切さや初心を思い出した」「学生の視点や意見は新鮮で、長年継続してきた事業やケースとの関わりの見直しのきっかけになる」「学生の一所懸命さを感じることで新鮮な気持ちになる」「カンファレンスの場は初心に戻れる機会であり、同僚の参加を促し人材育成としている」「自身の実習を思い出し、気持ちを新たにできる」「初心を思い出し、自分のパッションも感じた」
05	先輩保健師の語りを一緒に聞き、地区の見方や住民主体の活動の重要性を再認識する	先輩、重要性、 再認識、聞く、 発表	「年代の異なる保健師を交えた座談会を行ったところ、普段は聴けない先輩保健師から、市町ならではの継続した支援の経過について興味深い話がきけた」「先輩保健師の地区の見方、きいたり、感じたりして住民目線で物事を考える重要性を再認識した」
06	自身の保健師としてのあり方やこれからの保健師活動の方向性を考える機会となる	保健師、考える 感じる、自組織 実習	「実習後に成果物や感じた保健師像をきいて、自分が伝えたいことが伝わり、また保健師になりたいと思ってもらえたことが嬉しい」「指導する際の導き方、気づかせ方、言うべきことや言わないことなどコーチング技法も学べていると感じる」「実習があることでモチベーションがあがる」「実習反省会では、保健師としてのあり方や活動の方向性にも気づかされる」

注) 群：共起ネットワークで自動検出されたサブグラフのクラスター番号

きことや言わないことなどコーチング技法も学べていると感じた」と、専門能力を高める機会になっていた。

2) 学習支援者 (表 3)

上位 5 位までの抽出語は、学生 (12)、感じる、機会 (各 9)、視点、自分 (各 7) であり、以下、5 回以上出現した語は、データ、改めて、活動、見る、新鮮、知る、振り返る、多い、地域、地区診断であった。

5 つの群でネットワークが強くみられ、強さが大きい順に【学生の新鮮な視点や新たな気づきは、自分の地域での活動の参考となる】、【学生と一緒に担当地区の強みを様々な角度から見ることで、保健師活動の意義を改めて感じる】、【担当事業の根拠法令や歴史などを学びなおして説明することは、相手に伝わりやすい説明の仕方を身につける良い機会だ】、【地域診断での学生の細かな気づきや目的をもって実習にのぞむ学生の質問への回答は、自分の考えを整理するのに役立つ】、【自分の学生時代を思い出し、保健師としての原点を振り返る機会となる】が特徴として抽出された。

具体的には、「担当地区の強みを、改めて一緒に確認する」ことで担当地区を「様々な角度から見ることの大切さを感じ」、また、「学生の学びの報告を通して、自分たちの活動の意義を改めて感じる」ことができていた。更には、「学生にどう伝えると伝わりやすくなるのか学ぶことができ」、「学生の質問で気づくことも多く、自分の保健活動に活かしたり」、「学生の質問に回答することで自分の考えを整理する」機会を得ていた。

4. 学生実習受入れが組織にとって良かったこと

分析対象とした文章数は実習指導者 83、学習支援者 34 であり、実習指導者 7、学習支援者 3 のサブグラフが抽出された。

1) 実習指導者 (表 4)

上位 5 位までの抽出語は、保健師 (18)、学生 (16)、地区 (13)、教員 (12)、機会 (9) であり、以下、5 回以上出現した語は、実習、相談、健康課題、活動、事業、顔見知り、自組織、視点、新採、地区であった。

5 つの群でネットワークが強くみられ、強さが大きい順に【活動を振り返り地域の健康課題を整理し、改めて活動目標を考え、関係機関や他部署、住民へのネットワークを拡げる機会となる】、【若い学生から住民も組織も職員も刺激、活力、元気をもらっている】、【地区の健康課題を学生の視点でみることは、良いアイデアや新たな取組みに結びつくきっかけとなる】、【同僚や保健所保健師との話合う時間も増え、後輩を育てる意識が高まり、新任保健師の人材育成の機会となる】、【大学の教員と顔見知りになることで、学生指導や事業評価、健康課題等に関する相談が気軽にできる】が、学生実習受入れが組織にとって良かったことの特徴として抽出された。

具体的には、「実習を受けるたびに自分たちの活動の振り返りができ、同時に評価」を行い、「各担当者がオリエンテーションをすることで活動を振り返り、改めて目標や課題を整理」することで、「地区活動がなかったところに活動ができて継続している」いることが示された。また、「実習

表 3 保健師個人が学習支援を通して得たもの (学習支援者)

群	特徴	主な抽出語	自由記述 (抜粋)
01	学生の新鮮な視点や新たな気づきは、自分の地域での活動の参考となる	新鮮、視点 気づく、地域 参考、データ 資料	「学生は、住民が意識していない地域特性に気づき、住民や私たちにフィードバックすることがある」「新たな視点で地域や住民をみており、違う地域課題や良いところが見つかる」
02	学生と一緒に担当地区の強みを様々な角度から見ることで、保健師活動の意義を改めて感じる	改めて、一緒 見る、事業 機会 振り返る	「学生の学びの報告を通して、自分たちの活動の意義を改めて感じる事ができた」「担当地区の強みを、改めて一緒に確認することができた」「様々な角度から見ることの大切さを感じた」
03	担当事業の根拠法令や歴史などを学びなおして説明することは、相手に伝わりやすい説明の仕方を身につける良い機会だ	説明、伝わる 良い、学ぶ	「説明するために改めて仕事のまとめや分析をする機会となった」「担当している事業の根拠法令や歴史などを学ぼうとした」「学生にどう伝えると伝わりやすくなるのか学ぶことができた」「事業内容等説明するのが難しく感じ、相手に伝わりやすく説明する力を身につけなければならないと感じた」
04	地域診断での学生の細かな気づきや目的をもって実習にのぞむ学生の質問への回答は、自分の考えを整理するのに役立つ	学生、地区診断 目的、気づく 感じる、知る データ、資料	「地域診断での成果物を見ると学生ならではの視点や細かな気づきに感心する」「目的をもって実習にのぞむ学生が多いので、日頃何気なく実施している保健活動が新鮮に感じる」「学生の質問で気づくことも多く、自分の保健活動に活かしている」「学生の質問に回答することで自分の考えを整理する」「対象者ひとりひとりにじっくり時間をかけて関わることのできる学生ならではの丁寧な考えを知ることができた」
05	自分の学生時代を思い出し、保健師としての原点を振り返る機会となる	保健師、自分 活動、思い 機会、振り返る	「保健師を志した新鮮な気持ちがよみがえる」「自分の学生時代を思い出し、保健師としての原点を振り返る機会となる」

注) 群：共起ネットワークで自動検出されたサブグラフのクラスター番号

表 4 学生実習受入れが組織にとって良かったこと（実習指導者）

群	特徴	主な抽出語	自由記述（抜粋）
01	活動を振り返り地域の健康課題を整理し、改めて活動目標を考え、関係機関や他部署、住民へのネットワークを拡げる機会となる	活動、振り返り整理、住民関係機関事業、担当	「実習を受けるたびに自分たちの活動の振り返りができ、同時に評価もできる」「各担当者がオリエンテーションをすることで活動を振り返り、改めて目標や課題が整理できる」「地区活動がなかったところに活動ができて継続している」「実習依頼を関係機関にすることで、連携を深めることができています」「住民や関係機関、他部署とのネットワークが広がった」
02	若い学生から住民も組織も職員も刺激、活力、元気をもらっている	若い、新採参考、刺激元気	「若い学生とのふれあいは、地域も職員も元気をいただいた」「住民が喜ぶ」「住民に良い刺激となる」「学生の素直な視点や気づきにより組織が新鮮な感じになり活気ももらった」「新任期保健師が思いを語る場となり、モチベーション向上につながった」「今の学生の学び方が把握でき、新採保健師の育成や雇用の参考になる」
03	地区の健康課題を違う視点でみることは、良いアイデアや新たな取り組みに結びつくきっかけとなる	地区、健康課題きっかけ、視点	「地域ごとの健康課題や地区の特徴を見つけることができた」「学生の視点から地区の健康課題を浮き彫りにすることができ、活動自体の見直しになった」「地区の健康課題や解決方法についてよいアイデアにつながる」「地区の自主活動（サロン）の立ちあげのきっかけとなった」
04	同僚や保健所保健師との話合う時間が増え、後輩を育てる意識が高まり、新任期保健師の人材育成の機会となる。	保健師、実習受け入れる増える、同僚話し合う	「家庭訪問やオリエンテーション、記録点検などは新任期保健師の人材育成につながる」「職員の自主学習や自己評価、コーディネート力の育成につながる」「保健所保健師や同僚と話し合う時間が増えた」「自組織の他職種に未来の保健師を育てる役割があることを知ってもらえる機会となっている」「新採保健師育成の参考になる」
05	大学の教員と顔見知りになることで、学生指導や事業評価、健康課題等に関する相談が気軽にできる	教員、相談顔見知り、知る話す	「大学の教員と顔見知りになり、学生指導について話し合う機会がもてた」「実習以外の内容や研究を含めて気軽に相談ができるようになった」「教員から客観的な視点で事業評価や健康課題に関する助言をもらえた」

注) 群：共起ネットワークで自動検出されたサブグラフのクラスター番号

表 5 学生実習受入れが組織にとって良かったこと（学習支援者）

群	特徴	主な抽出語	自由記述（抜粋）
01	学生の視点で地区を知り、改めて地区踏査の大切さに気づく	学生、地区改めて、知る	「学生の視点を知り、普段の業務ではなかなかゆっくり振り返りやまとめができていない地区踏査の大切さに改めて気づいた」「資源や地域住民をどのように捉えるか学生の視点を知ることができた」
02	伝え方など指導スキルを学ぶきっかけとなる	活動、きっかけ	「どう伝えたら良いかなど、指導スキルを上司に相談して学ぶきっかけとなった」
03	新任期保健師の育成など自組織の人材育成につながる機会となる	保健師、感じる	「自組織の人材育成につながっていると感じる」「保健師としてのやりがいや思い返すよい機会となる」「最近の保健師の教育内容を知り、新任期保健師の育成の参考にする」

注) 群：共起ネットワークで自動検出されたサブグラフのクラスター番号

依頼を関係機関にすることで、連携を深めることができています」ことから、「住民や関係機関、他部署とのネットワークが広がる」機会となっていた。また、実習を受入れることで、「保健所保健師や同僚と話し合う時間が増える」とともに、「家庭訪問やオリエンテーション、記録点検などは新任期保健師の人材育成につながる」「職員の自主学習や自己評価、コーディネート力の育成につながる」と捉えていた。更には、実習計画の工夫で「新任期保健師が思いを語る場となり、モチベーション向上につながる」ことや「今の学生の学び方が把握でき、新採保健師の育成や雇用の参考」になっていた。

2) 学習支援者（表 5）

上位 5 位までの抽出語は、保健師（12）、機会（7）、学生（6）、感じる（5）、知る（4）であり、以下、3 回以上出現した語は、きっかけ、改めて、活動、実習、地区、良いであった。

3 つの群でネットワークが強くみられ、【学生の視点で地区を知り、改めて地区踏査の大切さに気

づく】、【伝え方など指導スキルを学ぶきっかけとなる】、【新任期保健師の育成など自組織の人材育成につながる機会となる】が、学生実習受入れが組織にとって良かったことの特徴として抽出された。

具体的には、「どう伝えたら良いかなど、指導スキルを上司に相談して学ぶきっかけ」となり、伝え方など指導スキルを学んでいた。また、実習は、「保健師としてのやりがいを思い返すよい機会となる」だけでなく、「最近の保健師の教育内容を知り、新任期保健師の育成の参考」にすることができ、「自組織の人材育成につながっている」と感じていた。

IV. 考 察

本調査において、保健師学生への関わりの工夫、実習の受入れによって保健師個人が得たものや組織にとって良かったことについて、回答者の 6~7 割が自由記述欄に回答していたことから、本研究

への参加者は、保健師学生や実習に対してポジティブな思いを抱いている可能性が高かった。

1. 保健師個人が学習支援を通して得たもの

実習指導者は、学生との関わりがより濃く身近な立場であることから、事前準備、実習中、実習終了後の一連の流れの中で、満遍なく学びや気づきを得ることができていた。事前準備として地域に出向くことで担当者の思いや事業の経緯を改めて知り、実習中の学生の記録点検や発表からは、自身の地区データを見直し、保健活動の振り返りを行う機会を得ていた。これらは、地区分析や健康課題を分析・評価する必要性や地区に出て活動する意義の再確認につながっていた。

また、住民主体の活動の重要性について、学生との関わりのみならず、実習計画として設定した先輩保健師の語りを共に聴くことで再認識していたことも、特徴的であった。語る側の保健師も準備のために過去を振り返り、自らの活動や継続している地域の支援経過等を整理する機会にしていた。また、実習における先輩保健師の語りは、管理期の保健師だけでなく、新任保健師が学生に向けて語るといったプログラム上の工夫も見られた。これらのことから、実習生への学習支援を機に、保健師間の学び合いが促されていたと考える。

学習支援者は、相手に伝わりやすい説明の仕方、自分自身の考えの整理の仕方など、学習支援に必要な技術(スキル)を身につける機会になると捉えていたことが特徴的であった。学習支援を行うことで、これらのスキルを身につけた者が、近い将来実習指導者という役割を担う立場になっていくことは、まさに学び合いの結果でもあり、理想的である。

役割に関係なく共通に得ていたものもあった。1つ目は、学生と一緒に地区踏査を行い新鮮な視点や発表に触れた結果、新たな地区の健康課題や強みに気づきを得ていたことである。学生の発表を聞くことで、「保健師活動自体の意義を改めて感じ取る」ことができた者もいた。2つ目は、自分の学生時代を思い出し、保健師としての原点や自身の活動を振り返る機会になったことである。学生の新鮮な思いや一生懸命さに触れると初心を思い出すことが多いが、特に、実習指導者の中

には、保健師としての在り方や今後の活動の方向性まで考える機会を得た者もいた。

離島で地域診断実習を受け入れた住民や保健師の思いと行動および保健活動の変化に注目した研究結果¹¹⁾と同様に、実習は保健活動の原点の気づきにつながることを示された。同時に、これからの自分の保健師活動に思いを巡らせる時間にもなりうると考えられた。

2. 学生実習受入れが組織にもたらしたもの

組織にもたらしたものについては、特徴を示すサブグラフ数だけでなく、それぞれの抽出語数が多く、実習指導者の方が学習支援者よりも組織としての学びをより強く感じていた。

組織にもたらしたものとして特徴的なことは、実習指導者では【活動を振り返り地域の健康課題を整理し、改めて活動目標を考え、関係機関や他部署、住民へのネットワークを拡げる機会】であり、学習支援者では【伝え方など指導スキルを学ぶきっかけ】になっていたことである。【新任保健師の育成など自組織の人材育成につながる機会】は共通で組織にもたらしたものと感じていたが、具体的には「後輩を育てる意識の高まり」を得ており、また、そこには「先輩・同僚の経験からの学び合い」があった。学生の考え方や学び方を知り、実習指導のスキルを身につけていくことは、自組織の後輩保健師の育成にも役立っていると推察された。また、指導スキルの向上は、学習支援者個人が得たものにも出てきており、実習受入れは個人だけでなく、組織にも良い影響を与え、学び合う職場の風土づくりの機会の1つになっていると考えられる。

実習指導者は実習開始前の自組織の職員、住民、関係者に対し、実習の協力依頼や役割分担や調整を行うことで連携を深め、ネットワークの拡大につなげていた。様々な医療プロフェッショナルの経験学習を比較した研究で、行政機関で働く保健師は、公衆衛生医師と同様に、ネットワークをつくりながら学ぶという特徴がある¹²⁾。結果、同僚や保健所保健師、関係者とのコミュニケーションは増えるという良い循環も推測された。実際には、自組織の先輩や経験者、保健所保健師への実習指導の相談や経験の共有など、保健師間の学び合いがみられた。また、大学教員と顔見知りになり、

学生指導以外の相談の機会が増えることも組織にとって良いことであると捉えられている。

学習支援者は実習生への関わりの工夫において、事業の目的や根拠を意識して伝えるといった指導スキルの向上がみられた。記録を読み、伝えたいことが伝わっているか確認するなど、実習期間の学習成果の吟味もまた、指導スキルを学ぶ機会となっている。家庭訪問やオリエンテーション、記録点検などは新任保健師の実践力を高めるとともに、自組織の他職種に未来の保健師を育てる役割があることを知ってもらう機会にするなど後輩を育てる意識が高まることになった。

現任教育のひとつである OJT は、日常の業務をとおして能力の修得がされ、業務に密着した知識や技術の修得、態度や行動の改善に有効である。その具体的方法として佐伯¹³⁾は、プリセプターシップ、メンターシップ、スーパーバイズ方式、プロジェクト方式等の形態をあげているが、保健師学生の実習を受けることにより、個別事例・保健事業・地区活動について学生・同僚・教員と検討する機会は OJT といえる。市町村保健師は、保健師学生の実習を保健師の活動を知ってもらう良い機会と捉え、実習指導者だけでなく、新任から管理期までの幅広い年代の保健師が、学習支援者として多様な役割を担っていた。田中ら¹⁴⁾は、実習指導の多様な役割行動を整理し、OJT に実習を位置づけることで、育ち合うしくみづくりを推進する可能性があるとして述べている。行政保健師のキャリアラダーや人材育成計画に実習指導の役割を位置づけることで、新任からの OJT に活かすことができ、組織的な人材育成において有効と考える。

市町村保健師は、保健師学生の実習指導に関わる中で、学生・住民・関係者・組織内外の保健師らと学び合う実態があった。嶋津ら¹⁵⁾は、プリセプターの役割を担うことにより、保健師個人及び組織の一員として意識が変容し、新たな役割から組織を俯瞰する視点をもって組織の改善に関わることができると述べている。保健師学生への学習支援は、プリセプターと同様に後輩を育てる役割機能を発揮し、個人の意識変容や組織の改善に貢献する可能性がある。

3. まとめ

大木¹⁶⁾は、「実習」は学生のみならず、実習指導者、教員が共に学びあう体験であり、専門職の教育は基礎教育で終わるものではなく、基礎教育から現任教育へと連続したものであると捉えている。本研究では、学生、実習指導者、教員だけでなく、地域住民や関係者や、保健師同士の学び合いの実態と指導者の意図・工夫を得ることができた。実習プログラムを計画する中で、意図して新任保健師や自組織の人材育成につながる内容を考え、プログラムに組み入れるなど、実習指導を職場における人材育成の場として活用している実態があった。これらは、現時点においては、実習プログラム立案の際の工夫に過ぎないが、今後、保健師実習を各自治体の保健師人材育成計画に位置づけることにより、OJT の一環として取り組み、更に学びあう職場づくりに貢献できる可能性がある。

4. 研究の限界

本研究の対象は、保健師教育課程を有する看護系大学の数に大きな違いのない四国内の市町村保健師に限定しており、違う形態で保健師実習を受入れている自治体保健師に本研究で得た結果があてはまるかは分からない。また、地域が特定されないように四国4県の所属地域は質問しなかったため、四国4県内を全体的に網羅できたとは言えない。コロナ禍のため2020～2021年は地域実習が十分にできていない中でのWEB調査であり、直近でも2年前のことを想起しなければならない者がいたことは、結果に影響を与えた可能性があり、研究の限界である。

謝 辞

本研究に御協力いただきました四国4県の市町村保健師の皆様へ心より感謝申し上げます。本論文は愛媛県立医療技術大学大学院保健医療学研究科修士論文の一部を加筆、修正したものです。

本論文に関して、開示すべき利益相反状態はありません。

引用文献

- 1) 厚生労働省. 地域における保健師の保健活動について.2013.
https://www.mhlw.go.jp/web/t_doc?dataId=00tb9310&dataType=1&pageNo=1 (2023年10月23日アクセス可能)
- 2) 小寺さやか、堀口和子、井上清美、他. 保健師実習指導者のスキルアップのための支援ニーズ. 第34回日本看護科学学会学術集会講演集 2014 : 682.
- 3) 厚生労働省. 保健師に係る研修のあり方等に関する検討会最終とりまとめ～自治体保健師の人材育成体制構築の推進に向けて～. 2016.
<https://www.mhlw.go.jp/stf/shingi2/0000119166.html> (2023年10月23日アクセス可能)
- 4) 藤原啓子、倉岡有美子、麻原きよみ. 横浜市の人材育成キャリアラダー開発の試みとその意義 「対人援助職」としてその成長を見える化. 保健師ジャーナル 2012 ; 68(9) : 780-791.
- 5) 河西あかね. 効果的な実習とするための東京都の配慮と工夫「保健師学生の実習受入れマニュアル(東京都多摩地域版)」を中心とした公衆衛生看護学実習. 保健師ジャーナル 2020 ; 76(09) : 728-734.
- 6) 安野敦子. バトンを渡す頼もしい後輩を現場で育てる 長崎県保健所実習指導者の経験を通して. 保健師ジャーナル 2020;76(09):750-754.
- 7) 麓由香里、福見早苗、眞鍋ゆかり、他. 公衆衛生看護学実習を切り口とした砥部町における地区活動の再評価. 四国公衆衛生学会雑誌 2017 ; 62(1) : 51.
- 8) 三宅久枝、伊豆麻子、中川泉. 保健活動の現場における看護学生の学習過程に関する研究 保健師活動の特性に関する理解を促す実習指導保健師の関わり. 新潟青陵学会誌 2010,2(1), 1-10.
- 9) 厚生労働省. 令和2年度保健師活動領域調査(詳細集計). 2021. <https://www.e-stat.go.jp/stat-search/files?page=1&layout=datalist&toukei=00450471&tstat=000001035128&cycle=7&tclass1=000001150826&tclass2=000001150828&tclass3val=0> (2023年10月23日アクセス可能)
- 10) 末吉美喜. テキストマイニング入門 ExcelとKH Coderでわかるデータ分析. 東京:オーム社. 2019.
- 11) 小林恵子、成田太一、齋藤智子. 離島における5年間の地域診断実習は地域住民や保健師に何をもたらしたか—地域診断実習を受け入れた住民や保健師の思いと行動および保健活動の変化—. 日本公衆衛生看護学会誌 2022 ; 11(1) : 46-54.
- 12) 松尾睦. 医療プロフェッショナルの経験学習. 東京:同文館出版. 2018 ; 29-48.
- 13) 佐伯和子. これだけは押さえておきたい現任教育の方法, 保健師ジャーナル 2006 ; 62(9) : 702-705.
- 14) 田中美延里、入野了士、窪田志穂、他. 効果的な学習支援事例の共有による実習指導者と教員の協働リフレクション 地域看護学実習報告会における試み. 愛媛県立医療技術大学紀要 2017 ; 14(1) : 27-34.
- 15) 嶋津多恵子、麻原きよみ. 保健師がプリセプターの役割を担うことによる認識の変化. 日本看護科学会誌 2014 ; 34 ; 330-339.
- 16) 大木幸子. 実習の意義と重点を再考する 杏林大学における取り組みから. 保健師ジャーナル 2020 ; 76(9) ; 735-737.

連絡先:

〒790-8570

愛媛県松山市一番町4丁目4-2

愛媛県教育委員会教職員厚生室

横井 百合

E-mail:yokoi-yuri@pref.ehime.lg.jp

